



桐生新町伝統的建造物群 保存地区

桐生新町伝統的建造物群保 存地区

場所＝本町一・二丁目全域及
び天神町一丁目の一部

見学＝外観のみ見学可(敷地
などへ無断立ち入りは不可)

問い合わせ＝重伝建まちづ
くり課重伝建係 (☎内線 34
6)

日本遺産とは
地域の歴史的の魅力や
特色を通じて日本の
文化・伝統を語る物
語と、それを構成す
る文化財を「日本遺
産」として文化庁が
認定したものです。

桐生の商業発祥の地

天正19(1591)年に徳
川家康の命を受けて、代官大
久保長安によって桐生新町が
形成されて以来、この地区は
織物業の中心地として桐生の
経済発展を支えてきました。
桐生の織物業は、大正期か
ら昭和初期に最盛期を迎え、
当時の桐生新町には、買継商
や糸商、呉服商、染物業など、

織物に関わる店が建ち並んで
いました。

保存地区内には、現在でも
約400棟の建物があり、そ
の内の約6割が昭和初期ま
でに建てられた建物です。今
でも織物工場や寄宿舎、銭湯
などが残り、女工の皆さんの暮
らしが偲べれます。

歴史を生かした産業観光

保存地区内では、伝統的な
建造物で営業している薬局や、
着物の貸し出しと着付けをし
てくれる店など、特色ある店
が有り、また、毎月第一土曜日
には、買場通りで買場紗綾市が、
桐生天満宮で天満宮古民具骨
董市が開かれるなど、市内外
からの観光客で賑わいます。

家族を支えた 女工さん

曾我 嘉子さん
(本町一丁目)



「機織(女工)さんの中には、工場に乳呑児
を連れてきて、働きながら面倒を見ている
姿もあり、それが印象に残っています」

曾我嘉子さんが織物業を営んでいた曾
我家に嫁いできたのは、昭和26年でした。
織物工場で機を織るのは、女性の仕事で、
家計を手助けするため、多くの「かかあ、
が工場で働いていました。

「桐生には女性が働く土壌があり、子育て
でも家計でも家族を支えていたのが、か
かあ天下の強さの一つだったかもしれませ
ん」と話してくれました。

今月の表紙

黒保根町国際理解推進事業の一つ
として、黒保根保育園では、月・水・金
曜日に1時間程度、ランディー先生が
来園します。英語を使った遊びは、子
供にも人気です。今では、ランディー
先生が来ると、英語であいさつができ
るようになりました。

人口と世帯

(6月30日現在)

人口	115,983人(−100人)
男	55,849人(−48人)
女	60,134人(−52人)
世帯	49,951世帯(+10世帯)
	()内は前月比

今月の納税

市民税・県民税…第2期

国民健康保険税…第2期

8月31日(水)が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などの
ペイジー対応ATMからも納付可能で
す。口座振替を利用している人は、預
貯金残高の御確認をお願いします。